■連載　縄文以来の伊達心⑪

高度3～６千に生息するアルパカ

マテリアル・コンサルタント　川島茂信

モンゴル産カシミヤは中国産より毛足はわずかに長いが、モンゴル産の白は色毛がわずかに入るので、純白に使用するにはブリーチしなければならない。イラン産は19ミクロンであるが、毛足が長く、淡、中、濃のベージュ、茶、グレー、白など天然の色が豊富である。

カシミヤの整毛は極めて特殊で高度の技術を要し、盤毛歩留まりは普通55%である。

2）染色：モヘアと同じく、羊毛並みに良く染まり、60℃で時間をかけて染めることができる。

3）縮絨：モヘアと同じく、縮絨はしない。

4）BLENDING：カシミヤ混紡には、英国では紡毛紡績でも、メリノ・ラムやファイン・メリノがCOMBINGされてからBROKENされてBLENDされる。カシミヤ混紡には化炭羊毛は使用されない。これはCOMBINGもCARBONIZEDも必要としない手で筴雑物をPICK UP出来るようなメリノ・ラムをブレンドするのが理想である。

カシミヤ混紡には嵩高性のあるメリノ品質のブレンドが最適としているが、嵩高性のある毛は多雨の地域で産するのでバー・シードの筴雑物が極めて多い。やむをえず嵩高性のあるメリノ品質をCOMBINGしてBROKENして混紡する。梳毛紡績でもカシミヤより毛足の長い、嵩高性のあるメリノ品質の毛が混紡さるべきである。

「アルパカ」

世界文明の発生地はナイル川流域、ガンジス川、インダス川流域、黄河流域と習ってきたが、1900年初めに南米の航空路が開かれ数多くのインカ・マヤの遺跡が空から発見された。研究の結果、それらはエジプト文明より古いのではといわれているが、私が40年前に初めてペルーを訪れた時、首都リマに天野ミュージアムがあり、全国民から最高の尊敬を受けていることを知った。

それは秋田県出身の考古学者天野芳太郎氏が私財を投じてペルー全土に渉り、2千年来の墳墓遺跡を発掘し、ミイラに着せられていた織物・生活具を収集したものである。

最高に乾燥したペルーの気候に助けられ、鮮明な状態で保存された数千点に及ぶもので、温調完備の近代建築に厳重に保管されている。世界中の織物種類の原点が総てその中に見いだされるとの事である。

１５００万年前、ラクダ科の動物の祖先は、今のカナダの北部に生息していたものがアジアに移動して現在のラクダになり、さらに北・南アメリカ大陸を南下して、現在アンデス山中に生息しているのがアルパカ類である。

北アメリカでは現在のアルパカ類の二倍大ものアルパカ族の化石が発掘されている。アルパカ類は動物学上の分類ではラクダ科に属し、南米ペルーを中心に、頂上まで亜熱帯下の、砂漠の如く乾燥し、木が一本も生えてないアンデスの山々、三千～六千mの高地に生息している。

昼は30度以上、夜は零下15度まで下がる過酷な条件の下、粗食に耐えて何千年或いは何万年と生き抜いてきたのである。種は既に何千年も前にインディオの人々によって採毛用に品種改良され飼育されてきた。やや背の低いアルパカやスーリー、採毛のみならず昔から荷物を背負ってアンデスの山越えをしてきた。